

久間防衛相が辞任

原爆発言で引責

首相の政権運営に打撃

久間章生防衛相(66)は「ない」と発言して国民の三日、先の大戦での米国の不信を招いた責任を取り、防衛相を辞任する意向を伝えた後、報道陣の質問に答える久間防衛相＝3日午後1時12分、首相官邸



安倍首相に辞任の意向を伝えた後、報道陣の質問に答える久間防衛相＝3日午後1時12分、首相官邸

は野党側が「あるまじき発言」として、首相に罷免を求めると一斉に反発、世論の批判も高まっていた。久間氏は目前に迫っている参院選への影響を最小限に抑えるには早期決着が必要と判断したとみられる。

安倍首相も久間氏の辞任で、事態の沈静化を図りたい考えだが、任命責任を問われるのは必至。政権運営にとって大きな打撃で、参院選対策の見直しも迫られそうだ。久間氏は、記者団に「なかなか理解を得られていないようだから、首相に『はじめをうけない』と申し上げた」と述べた。

昨年九月発足した安倍政権で閣僚が辞任したのは、佐田玄一郎行政改革担当相に次いで二人目。このほか、農相が松岡利勝氏の自殺により交代している。

久間氏は六月三十日の

千葉県での講演で「長崎に落とされ悲惨な目に遭ったが、あれで戦争が終わったんだ」という頭の整理で、しようがないなど思っている。それに対して米国を恨むつもりはない」と表明。同時に原爆投下は旧ソ連の対日参戦を米国が阻止する狙いもあったとの見方を示した。

これに対し、首相は当初「米国の(当時の)考え方を紹介したと承知している」として、問題はないとの認識を示していた。しかし、久間氏の発言をめぐっては、三日に長崎市の田上富久市長が久間氏に直接抗議したほか、公明党の浜四津敏子代表代行が「(問題の大きさ)を自覚して身の処し方を決めていただければよい」と述べるなど、自発的辞任を求める声も出ている。

久間氏は衆院長崎2区選出。東大卒業後、農水省に入り、地元・長崎県議を経て国政に転身。防衛庁長官、自民党幹事長代理、総務会長などを歴任し二〇〇六年九月に再び防衛庁長官に就任。今年一月に防衛庁が省に昇格したのに伴い、初代防衛相。衆院当選九回。